


ペルー共和国		首都	リマ
 <p>赤は勇気と愛国心、白は平和と進歩・名誉を示すといわれている。</p> <p>独立：1821/7/28 スペインより 国連加盟：1945/10/31 政体：共和制</p>	国 の 概 要	国土	面積 128万5,000 km ² (日本の3.4倍) 南米大陸の太平洋岸に位置し、標高5,000~7,000mのアンデス山脈が中央部を南北に走る。沿岸部の低地はコスタとよばれる幅の狭い砂漠地帯、東部はセルバとよばれるアマゾン川上流流域の熱帯雨林地帯である。中央の山岳地帯はシエラとよばれ、山間に広大な高原やチチカカ湖をはじめとする湖が点在している。
		人口	2,800万人
		言語	スペイン語(公用語)、ケチュア語(公用語)、アイマラ語
		通貨	ヌエボ・ソル
		気候	沿岸部はほとんど雨の降らない砂漠気候で、低緯度であるがフンボルト海流の影響を受けてあまり暑くはならず、雲や霧が多い。山岳部は全般に乾燥した高山気候、東部は高温多雨の熱帯雨林気候である。12~4月が乾季で、6~10月が雨季である。
		民族	インディオ47%、メスティソ(白人とインディオの混血)40%、ヨーロッパ系12%、東洋系1%
	宗教	カトリック教徒90%	
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園(4歳~)、小学校(6年間、7~12歳)、中学校(5年間、13~17歳)、大学(5年・医学部8年)となっている。大学予備校、専門学校もある。 ・学校は国立と私立のみで、市立はない。国立の場合、授業料は無料である。また、国立の小・中学校の多くは2部(午前・午後)または、これに夜間を加えた3部制を実施している。 ・日系の小・中学校が5校、インターナショナルスクールが3校ある。 	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育は5歳(幼稚園)から16歳(中学5年生)までの11年間である。 その年の5月31日までに満6歳になる者は、その年の4月1日に義務教育の第一学年に入学する。 ・幼児教育1年間が義務教育となっているが、幼稚園はほとんどが私立で、数も十分でないため完全実施には程遠い状況 	

		である。
	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・使用言語はスペイン語。小学校では、1週間に国語(6)、算数(6)、社会科(6)、理科(6)、体育(3) 英語(1) 宗教(2)などの基礎科目が教えられ、中学校ではこれらの科目に英語、物理、心理、公民などの科目が加えられる。 ・授業は45～50分授業で、道徳はなく、学級活動や学校行事も少ない。 ・リマの中等教育の学校では、カリキュラムとして、コミュニケーション(語学) 数学、自然科学、宗教、体育が必修となっている。選択科目は普通、文系と技術系に分かれている。
	義務教育後の教育	・大学(5年制)、各種専門学校(1～3年制)がある。
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満は保育園、3歳～5歳までは幼稚園となっている。 ・保育園の数が少ないので、上の子が下の子の世話をするのが一般的である。 ・幼稚園はお金がかかるので、裕福でないとは行くことができない。
学 校 生 活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業は12月中旬～3月中旬の約3ヵ月間、冬季休業は7月28日を中心とした2週間である。 ・2学期制で、1学期は4月1日～7月27日、2学期は8月11日～12月20日である。
	学級担任制、教科担任制等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、学校によって違うが、体育・音楽などを除き、1年を通じて1人の教師がすべての教科を教える。アシスタントが1人いて、面倒をみている。 ・中学校では学級担任はいるが、教科担任制になっている。 ・通知表は小学校が年3回、中学校が年4回出し、0～20段階評価である。
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・学校によって違うが、各教科は20点満点で評価され、不合格点(10点以下)が3教科以内であれば追試験の結果により進級の可否が決められるが4教科以上は落第となる。 ・出席日数が70%以上でなければ進級できない。 ・飛び級は試験にパスすれば可能である。
	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校から中学校まで一貫して「宗教」の時間が設けられている。 ・水泳の授業はない。理科実験は比較的少ない。 ・音楽や体育の時間は少ない。 ・私立校では、英語・コンピュータの授業がある。

<p>学校行事の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会（陸上競技大会とレクレーションを併せたようなもの）がある。 ・「母の日」などの行事がある。 ・学校によって違うが、遠足や小・中学校の最終学年に保護者主催の修学旅行が学校の休日を利用して行われる。参加は自由である。 ・独立記念日にセレモニー等を行う。
<p>給食</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・給食制度はなく、各自弁当、スナック、飲料水等を持参又は校内の売店で購入する。午前の部の子どもは、学校が終わってから家で食べる。 ・おやつを持参し、休み時間に食べる。（ロンチエラ） ・私立校の中には、給食設備の整ったところもあるが、自由参加となっている。
<p>チャイムや号令</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校朝会では学級委員が各学級の先頭に並び整列させる。 ・朝会終了後、順に学級に入り授業が始まる。 ・授業の切れ目にチャイムが鳴らされる所と「起立、礼」やチャイムがないところもある。
<p>教室における行動様式等の違い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークが多く、宿題も多い。宿題が本読み程度の学校もある。 ・カウンセリングのために児童生徒や保護者が呼び出しを受ける場合がある。
<p>校則 (学校によって違う)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定刻に校門が閉められるので、遅刻すると入れなくなる。この時はいったん家に戻り、保護者同伴で登校し生徒指導担当の教師に遅刻の理由を述べ、許可されると授業を受けることができる。 ・1学期中に3回以上の遅刻があれば父母が呼び出されて注意される。 ・校則として、言葉遣いの注意、校内への持ち込み品、教室などでの飲食、制服の着用（幼稚園から高校まで）、髪型などの規定がある。守られない場合は、担任による口頭注意、校長からの呼び出し、状況に応じて停学・退学の処分がある。 ・女性は子どものときからピアスをしているのが普通である。 ・宗教的儀式に参加することは校則で定められている。
<p>保護者の授業参観、保護者会、PTA</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的に、子どもの教育は学校・教師主導のもとに行われているが、親の発言も多い。授業参観、家庭訪問の制度はなく、子どもの試験の成績が悪かったり、授業・生活態度など

	<p>について問題があったりする場合は、教師は随時、親を呼び出し、注意を促す。また、小学校での宿題については、その履行を親に必ず確認させるという方法をとっている。</p> <p>・PTA 活動は活発で学校の運営に関する事で会議が開かれる。</p>	
子どもの一日	<p>・宿題を終えた後、男子はサッカー、女子はバレーボールをしたり、TV や TV ゲームをしたりし過ごすことが多い。塾に通っている子もいる。夕食は 8 時～9 時と遅く、就寝は 10 時ごろとなる。</p> <p>・電車はないので、バス通学か家の方が車で送る。</p> <p>・小学校の高学年になるまで、子どもだけの外出はしない。5 年生から一人でも通学できる。</p> <p>・午前中は家の手伝い（仕事）をし、午後から学校に行き、帰宅後はまた、弟妹の面倒をみるという小・中学生も多い。貧富の差が大きいので、いろいろなケースがある。学校に行けない子どももいる。</p>	
その他	<p>・裕福な家庭では、受験のために塾に通う。</p>	
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	<p>・男ことば、女ことばという特定の言語はなく、性別は単語の語尾の変化で示す。</p> <p>・日本語の学習では、「シ」と「チ」の区別がつきにくい、「ヤ行」と「ジャ行」が混同する、「H」を発音しないので、「ハ行」の子音の脱落がみられる。</p>
	指による数え方 計算方法の違い	<p>・小指から数えることが多い。親指、人差し指の順に数える場合もある。</p> <p>・割り算の筆算のしかたが異なる。</p>
	宗教上の忌避事項	<p>・セマナ・セント（聖なる週間）は魚を食べる人が多い。</p>
	食生活	<p>・朝はカフェオレか菓子パンのようなものか牛乳のみ、昼は時間をかけてきちんとした食事をとる。夜は、8 時頃にサンドイッチ等軽く食べる。</p>
	衣服住居の違い	<p>・1 日の温度差があるため朝はセーター、昼は T シャツということもある。帽子の着用はあまりしない。コート、オーバー、かさの必要はほとんどない。</p> <p>・かつては土塗り壁構造の住居が一般的であったが、近年は少なくなっている。レンガ・石・コンクリートの家が多い。</p> <p>・浴室とトイレは同室になっている。</p>

	交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・車は右側通行で、リマ市内には電車が通っていない ・バイクや自動車の運転免許は 18 歳になると取得可能となるが、親の特別許可があれば 18 歳未満での取得も可能である。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・正式な名前は、ファーストネーム 1 (+ファーストネーム 2) + 名字 (父方) + 名字 (母方) である。名字 3 (父方) 名字 4 (母方) まである子もいる。 ・学校ではファーストネームで呼ばれる。 ・喫煙、飲酒は 18 歳以上が許されている。 ・日本については、国民の努力で高度な技術をもって発展を遂げた国、親切な国というイメージが強い。日本の伝統的な文化にも関心をもち、日本のコンピュータゲームに熱中する生徒も多く見られる。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の教育情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・日本語教材「にほんごをまなぼう」の指導書資料・・・・・・・・文科省
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・リマ日本人学校（月刊誌「海外子女教育」）・・・・・・・・海外子女教育振興財団
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・平凡社
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・井上恵子
- ・日本語指導担当教員より（2名）


ベルギー王国		首都	ブリュッセル
 <p>伝統的な紋章の黒地に赤い舌を出した黄色いライオンからとっている。</p> <p>独立：1831/7/21 オランダより 国連加盟：1945/12/27 政体：立憲君主制</p>	国 の 概 要	国土	面積 3万 1,000 km ² (九州の 80%) 北海に面して、北部はフランドル平原が広がり、南下するにつれ標高が増し、南東部では丘陵性で、平均標高 500m のアルデンヌ高原となる。平野部は北海に面し、小川と運河による水路が発達している。北海岸には砂丘列があり、海面下の低湿地も見られる。
		人口	1,040 万人
		言語	オランダ語 (公用語)、フランス語 (公用語)、ドイツ語 (公用語)
		通貨	ユーロ
		気候	メキシコ湾流の影響で夏は冷涼、冬は温暖な西岸海洋性の温帯気候である。降水量は年間 1,750~1,000mm で季節による変動は少ない。冬は霧が多く晴天は少ない。内陸部の冬は積雪が多く厳しい。
		民族	フラマン人 (オランダ語系) 57%、ワロン人 (フランス語系) 32%、ドイツ語系
	宗教	カトリック 75%、プロテスタント 25%	
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・初等教育 6 年、中等教育 6 年である。 ・中等教育は普通科、技術系、職業系、芸術系に分かれている。 	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・初等教育・中等教育期間(6 歳から 18 歳)の 12 年間である。 ・ベルギーの教育制度は中央集権的ではなく、各共同体 (フランス語圏、オランダ語圏、ドイツ語圏) に教育に関する権限がある。 ・義務教育期間の経費は国家負担で、学区制はなく、フランス語、オランダ語の学習が義務付けられている。 ・その年の 12 月 31 日までに満 6 歳になる者は、その年の 9 月 1 日に義務教育の第 1 学年に入学する。 ・教育目標は、自己管理のできる人、知識のある人、自治力のある人、批評ができる人を育てて社会に送り出すことであり、学校教育の重点は学習の仕方を教えることとされている。 	

	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・学校年度は9月1日～翌年の6月30日となっている。 ・3学期制を採っており、1学期は9月1日～12月21日、2学期は1月7日～3月21日、3学期は4月7日～6月30日、となっている。 ・週5日制で、1クラス20名程度である。 ・経費は国家負担で、学区制はない。 ・教授言語は地域によりフランス語、オランダ語（フラマン語）ドイツ語となっている。 ・例えば、ブリュージュ市の私立の中等学校では、カリキュラムがギリシャ語古典課程、ラテン語古典課程、現代課程に分かれている。どの課程を選択するかによって、履修科目と履修単位が決まっている。オランダ語、フランス語、英語、ドイツ語の4カ国語のほか、宗教、コンピュータも必修になっている。
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・高校受験や大学受験はない。医・歯学部を除いて、大学に行きたい人は所定の過程を経て希望すれば、基本的に入学できる。一部で入試制度が導入されようとしている。 ・一部のビジネス・スクールを除き、日本の私立学校のような高額な学費を払う教育施設がない。
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳半～3歳より小学校入学まで保育園・幼稚園に通園する。しかし義務ではない。 ・費用はその家庭の収入による。1日あたり約14ユーロを支払うが、後で国からの払い戻し及び税金の控除制度がある。幼稚園の費用は給食とおやつ費（1ヶ月70ユーロ）のみで、弁当持参も許可されている。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は国・公立学校、自由学校（カトリック系や無宗教学校）、私立学校、日本の文科省にあたる機関の管轄外の学校があるが、学校選択権は保護者にある。 ・初等教育段階から学力不振による落第、ことばと文化的背景が異なる外国人受入問題、宗教的な問題等の課題がある。
学 校 生 活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みは、6月末～9月初めまでである。
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・落第制度がある。
	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動は、小規模に課外活動を行っているところもある。
	学校行事の特徴	
	給食	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食は帰宅して食べるか、弁当持参か、給食を取るか、を

		選択できる。給食には菜食主義者のためのメニューもある。 1食あたり 3.72 ユーロ。
	チャイムや号令	・ない。
	校則	・制服はなく学校内の服装は自由である。私立校には制服がある。欠席は電話で連絡する。学校への伝言は毎日持ち帰る連絡帳で行う。 ・通学は、小学校の場合は保護者同伴である。 ・宿題はあるが、冬休みや夏休みにはない。 ・学校へは貴重品や必要以上の現金を持参しない。
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	・各学校単位の保護者会は一般的に組織されている。父母会は夜に開かれ、両親そろって出席し、学校や教師が行っていることに関して父母側は積極的に意見を表明する。
	子どもの一日	
	その他	・学校により、金曜日の放課後にはアカデミー・クラスとして、例えば、自然科学、統計、美術史、ロシア語、東洋の言語などの学習の場が提供されている。自由参加だが、多くの生徒がいずれかのクラスに参加している。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	・オランダ語とフランス語とドイツ語が公用語であるが、母語以外の言語教育は「外国語教育」というよりも、国内で用いられる諸言語の習得という位置づけにある。6歳で初等教育が始まると、まず自分の住んでいる語圏の言語 A を母語として習い、初等教育 5 年生（10 歳）から、ベルギー国内で使われている A 以外の言語 B（オランダ語・フランス語・ドイツ語のいずれか）を学ぶ。
	その他	・チャンネル数の多いケーブルテレビが普及している。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・ブラッセル補習授業校・・・・・・・・・・・・・・・・補習授業校ホームページ
- ・教育事情あの国この国・・・・・・・・・・・・・・・・全教研
- ・日本とベルギーの教育比較・・・・・・・・・・・・・・・・ヘイディ クニツプラト
- ・ベルギー外国語事情・・・・・・・・・・・・・・・・長谷川 祐里


ポーランド共和国			首都	ワルシャワ
 <p>夕焼けの空に飛ぶ白鷺を見て旗にしたという建国の歴史の伝説からできている。赤はこの国の建設に流した血で、白は喜びを表している。</p> <p>独立：1918/11/11 ロシア・プロイセン・オーストリアより 国連加盟：1945/10/24 政体：共和制</p>	国 の 概 要	国土	面積 32万3,000 km ² (日本の0.8倍) 南部のカルパチア山脈を除くと、国土の大半を平坦なポーランド平原が占めている。北部でバルト海に面している。国土の平均高度は170mで、平原地帯は100m、中央部はビスワ川の流域地帯である。南部国境にズデーテン、カルパチアなどの山脈が走り、最高点は標高2,500mである。	
		人口	3,850万人	
		言語	ポーランド語 (公用語)	
		通貨	ズウォティ	
		気候	北西部のバルト海沿岸は温帯気候、東部と南部は冷帯湿潤気候である。海洋性から大陸性への移行帯にあるため不安定で、冬季は長く寒冷となるが降雪は少ない。降水量は平均しており、季節による変動は少ない。	
		民族	ポーランド人 99%	
		宗教	カトリック 95%、東方正教会、プロテスタント	
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	・ 小学校は6年(7歳~12歳)、中学校は3年(13歳~15歳)、高等学校は3年(16歳~18歳)、高等専門学校は2年(16歳~17歳)、職業学校は2(3)年(16歳~17(18)歳)である。大学は5年間である。		
	義務教育	・ 7歳~18歳までは義務教育であり、退学することができない。 ・ その年の12月31日までに満7歳になる者は、その年の9月1日に義務教育の第1学年に入学する。		
	日本と比較した教育課程上の特徴	・ 学校年度は9月1日~6月の第3金曜日までである。 ・ 授業はポーランド語で行われ、選択授業(有料)で週に3回、英語・ドイツ語・スペイン語がある。 ・ ワルシャワにある高校では、日本語のクラスが設けられ、日本文化クラブもある。		
	義務教育後の教育	・ 高校または高等専門学校を修了した者が大学へ進学することができる。または最近では大学進学者が増加しており、大学に通いながら働ける職場に人気がある。また、夜間大学の人気も高まっている。		

		<ul style="list-style-type: none"> ・大学では5年間のうちにいつでも試験に不合格となる可能性があるため学生は大いに勉学に励んでいる。 ・また、社会人講座も週末に開かれている。ポーランドの大学では特に医大と音大のレベルが高い。
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前の1年間「ゼロ学年」と呼ばれる教育が行われる。 ・「ゼロ学年」は幼稚園や小学校に付設され、入学を迎える子どもたちを対象に読む・数える・絵を描くことなどを教育する。設備も比較的整っており、朝昼の食事とおやつもでる。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校から高校まで、児童生徒は成績が記載された手帳を持っている。手帳には両親がサインする欄があり、子どもの成績、学習態度、また、親へのメッセージを教師から知らされた際にサインする。 ・教師の地位が高いため、授業中の子どもたちはとても静かで決して教師を怒らせたりはしない。 ・学校は知識やマナーを教えるところとされ、家庭でマナーや倫理観、精神的によい人間になるための教育をする。 ・18歳になったら、兵役義務があるが、大学生は免除されている。
学 校 生 活	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では遠足や遊びが多く取り入れられ、各教科で勉強する内容も豊富である。 ・小学校1年生から暗記に重きを置く教育が行われ、口頭質問とそれに対する即答の訓練が頻繁になされる。 ・ポーランド語には同音で異なった文字（例：UとO）を持つ場合がいくつかあり、それを聞き取り、書くという訓練も行われる。そのため授業では書き間違いをなくするため、鉛筆ではなくペンなどを使わせる。 ・2年生のはじめには、食事に関して各自で最低限のことができるよう、ナイフの使い方などの訓練がある。
	給食	<ul style="list-style-type: none"> ・給食は有料で月ごとに支払うが、希望者のみである。 ・食事中は教師が立ってテーブルマナーや好き嫌いなどに気を配り、問題があれば親に忠告する。 ・弁当を持参する場合は、サンドイッチ・果物・飲み物が多い。菓子も自由である。

	教室における行動様式等の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで何かをすることはまれで、生活態度や授業中の態度が評価の対象になることはない。 ・自分で考えることを重視し、個性が一番大切と考えられている。
生活習慣等	食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・7:00に朝食(シニャダニエ)としてパン、ジャム、ミルク、白チーズ、半熟卵を食べ、11:00に第2朝食(第2シニャダニエ)としてサンドイッチ、紅茶、15:00にディナーとして肉、サラダ、スープ、じゃがいも、パン、ジュース、ケーキ、そして、20:00に夜食(コラツィア)としてパン、サラダ、チーズ、ソーセージ、紅茶の食事をする。 ・代表的なポーランド料理はピゴス、フラチキ、バルシチ、コトレット、ポンチキとヘルバータがある。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！(キッズ外務省)・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・教育事情あの国この国・・・・・・・・・・・・・・・・全教研
- ・社会科副読本・・・・・・・・・・・・・・・・ワルシャワ日本人学校

ボリビア共和国		首都	ラパス（政治的）スクレ（憲法上）
 <p>赤が独立のために流された勇士の血を、黄は鉱物資源を、緑は豊かな森林資源を表している。中央の紋章は州を象徴する図柄となっている。</p> <p>独立：1825/8/6 スペインより 国連加盟：1945/11/14 政体：共和制</p>	国 の 概 要	国土	面積 109万9,000 km ² （日本の約3倍） 南米大陸中央の内陸国で、西部は6,000m級の高峰がそびえるアンデス山脈、中央はアマゾン川上流の溪谷地帯を持つ高原、東部は大森林に覆われた平原、南部はグランチャコとよばれる大草原地帯である。ペルーとの国境には航行できる湖としては標高が最も高いチチカカ湖がある。
		人口	920万人
		言語	スペイン語（公用語）、ケチュア語（公用語）、アイマラ語（公用語）、グアラニ語、チキタノ語
		通貨	ボリビアーナ
		気候	アンデス山系の高原地帯（高度3,000m以上）は亜寒帯で日中平均気温は12℃、夜間は氷点下まで下がることもあり、日気温較差が激しい。溪谷地帯（1,800m～3,000m）は温帯から亜熱帯の様相を呈する。平原地帯は熱帯である。雨季は9～3月、乾季は4月～8月である。但し、これはアマゾン地域の気候で、アンデス山系、中央など、地方によって違う。
		民族	インディオ 55%、メスティソ（白人とインディオの混血）32%、ヨーロッパ系 13%
		宗教	カトリック 95%、プロテスタント
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	・6歳からの初等教育が8年間、中等教育が4年間、大学が3～5年間となっている。	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・6歳から13歳の8年間の初等教育が義務教育期間であるが、経済的な理由により就学できない子どももいる。現在の大統領になってから、全員行けるように変わりつつある。 ・学校によるが、一般的にその年の3月31日までに満6歳になる者は、その年の2月最初の月曜日に義務教育の第1学年に入学する。 ・公立の場合授業料は無料である。教科書等はほとんどの学校ではコピーをして使っている。 	
	日本と比較した教育課程上の特徴	・学校年度は2月上旬～11月上旬で、3学期制をとっている。1学期は2月上旬～4月下旬、2学期は5月中旬～7月下旬、	

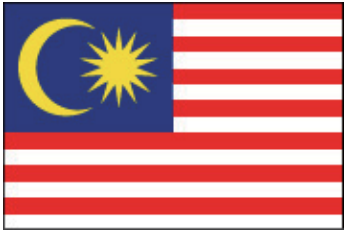
		<p>3 学期は 8 月上旬～10 月下旬である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11 月は補習及びテスト期間である。 ・ 公立私立とも午前・午後の 2 部制をとっているところが多く、最近ではあまり見ないが、午前と午後で別の学校が使っているということがある。学校施設不足などの理由により 1 つの校舎を 3 つの学校が共有するケースもある。
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各州に国立大学が 1 校、首都ラパスやサンタクルスには私立大学がある。 ・ 私立では、高校を修了して大学へ進学する者が多い。大学は、入学は簡単だが、卒業は難しい。(大学にもよるが、入学者の 50%ぐらいが普通年度で卒業、残りは何年もかかるか退学する) ・ 公立では、義務教育終了後、社会に出るか、公立大学へ入学する場合が多い。経済的理由により、働くか公立大学しか選べない。
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 義務ではないが、都市部の場合はほとんどの子が幼稚園に通う。地方農村部には幼稚園がないことが多く、いきなり小学校へ入学する。 ・ いくつかの私立校の場合は、幼稚園が一貫教育の一段階として義務付けられており、対象は幼稚園が 4 歳から、保育園は義務ではないが 1～5 歳である。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育・文化省が教育全体を統括している。 ・ 私立校は、(幼)・小・中・高までの一貫教育を行っていて、公立に比べ教師、教育設備などに優れ、教育水準も高い。 ・ 公立校では、学費が教材費以外はほとんどかからないが、教職員のストライキが多く、年間カリキュラムの消化に支障の出る場合もある。
学 校 生 活	休業期間	・ 夏季休業は 11 月末～約 2 ヶ月間、冬季休業は 6 月末～約 2 週間となっている。
	学級担任制、 教科担任制等	・ 日本と同様である。
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・ 落第は小学校からある。 ・ 各教科を 70 点満点で評価し、35 点以下は落第の対象となる。追試を受ける。
	教育内容の差異	・ 清掃活動はない。
	学校行事の特徴	・ 学校創立記念日、母の日、独立記念日、州の記念日、こと

		もの日、教師の日、遠足(年2回)、スポーツの日(年数回)、展示会(絵画等)
	給食	<ul style="list-style-type: none"> ・公立小学校では、牛乳とビスケットは支給されるが給食はない。 ・一般に午前の部は昼までで終了するため、帰宅して昼食となる。但し校内に食堂や売店があり、午後まで残るときは利用できる。
	チャイムや号令	・日本と同様である。
	校則	<ul style="list-style-type: none"> ・時間厳守が求められ、遅刻を5回すると1日の欠席扱いとなる。 ・制服がある。 ・アクセサリや携帯電話は学校によって認められている。
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	・私立校の場合、教師は親との連絡会を各学期に設け、子どもの学習状況等を発表する。個人的に面談の必要があれば、文書にて知らせる。
	子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> ・午前部の子どもは、スクールバス利用のときは朝7時ごろに家を出る。軽食程度のものは持参する。校内でも軽食は売っている。帰宅後昼食をとり、その後宿題や趣味の時間にあてる。 ・午後部の子どもは、コンピュータ、英語、ギター等を趣味的に習っていることが多い。帰宅後は宿題を行う。 ・就寝時間は家庭によって違う。パーティがあるときは、午前1時~2時に帰宅することもある。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教授言語は、主として、スペイン語だが、地方によっては、アイマラ語、ケチュア語、グラア二語等現地の言語が用いられている。 ・日本語の学習では、「ツ」と「ス」と「チュ」の区別がつかない、「シ」と「チ」の区別がつかない、「ヤ行」と「ジャ行」の混同、「ハ行」の子音が脱落してしまうことがある。
	宗教上の忌避事項	<ul style="list-style-type: none"> ・カーニバル(謝肉祭)の火曜日にチャヤ(お浄め)を行う。家等を購入した際にもチャヤを行う。 ・家の中で傘を干すのは運が悪いとされている。
	食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食はパンとコーヒー程度、昼食はスープと肉料理が主で、十分時間をかけて食べる。午後4時ごろお茶の時間がある。夕食(午後9時位)は比較的軽い。 ・主食は、じゃがいも、米、とうもろこしで、野菜、果物、

	牛乳、卵も時々食べる。アンデス地方では、トマトととうがらしで作ったソースを料理の味付けに使う。
衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・私立校では制服が指定されており、公立校では白衣着用が義務付けられている。首都ラパスは湿度が低いので化繊の服を着る人が多い。 ・都市部では、ビルが密集して、近くには高級住宅地もある。 ・農村部では、ほとんどが日干しレンガでできた 2～3 部屋の小さな家で、屋根はトタン板か瓦葺である。 ・住居内は土足で、玄関はもちろん各部屋に鍵をかける習慣がある。アパートでは外部から洗濯物を見えないようにする習慣がある。
交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・車は右側通行である。バイクは免許がいらない。自動車の免許は 18 歳から取得可能である。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・正式の登録される氏名には父方及び母方の姓をつける。つまり、ファーストネーム 1 (+ファーストネーム 2) +名字 (父方) +名字 (母方) である。名字 3 (父方) +名字 4 (母方) まである子もいる。 ・学校ではファーストネームで呼ばれる。 ・18 歳以上の男子には 1 年間の兵役がある。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の教育情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・青年海外協力隊員の活動・・・・・・・・・・・・・・・・JICA
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・・・・・・・・・井上恵子


マレーシア			
 <p>14本の赤と白の横線は国を構成する13の州と連邦政府を示している。左上の青地は人々の結束を象徴し、黄色の三日月は国教であるイスラム教を表し、14の光のある星は、13の州と連邦政府の結束を象徴している。</p> <p>独立：1957/8/31 国連加盟：1957/9/17 政体：立憲君主連邦制</p>	<p>国の概要</p>	首都	クアラ・ Lumpur
		国土	面積 33万km ² （日本の約90%） マレー半島のボルネオ島北西部のサラワク、サバ州からなる連邦国家で、半島部は中央を南北に走る山脈と沿岸平野からなる。サラワク、サバ両州は標高1,000m程度の山岳で覆われ、沿岸平野は狭い。
		人口	2,717万人（2007年）
		言語	マレー語（公用語）、英語
		通貨	リンギ（RM）
		気候	マレー半島は高温多湿の熱帯モンスーン気候で、北東モンスーンの吹く10～2月に多量の雨が降り、特にマレー半島も東海岸に多い。南西モンスーンの吹く6月～9月は比較的雨量は少なくなる。ボルネオ島は熱帯雨林気候で、降雨も短期間のうちに豪雨となって降るスコールの形である。
		民族	マレー系+先住民 65.1%、中国系 26%、インド系 7.7%
宗教	イスラム教、仏教、道教、ヒンズー教、シーク教、キリスト教		
<p>教育制度の概要</p>	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・プレスクール（4歳から）、初等教育6年、下級中等学校3年、上級中等学校2年、大学予備課程2年、大学3年である。 ・初等学校は教育語の違いによって、国立小学校、国立中国語小学校、国立タミール語小学校に分けられる。 ・中等学校は、国立中学校、中等技術学校、国立寄宿学校に分けられる。 	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・中等教育までは無料で、初等教育の就学率はほぼ100%となっている。 ・義務教育期間は6歳から12歳までの6年間である。 	
	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・公立の中学校では、授業は月曜日～金曜日の午前7：30～午後2：15までで、1～3年生は8科目、4～5年生は9科目を履修する。4年生では、基礎科学や社会科学などの選択科目があり、生徒の希望と成績によってクラス分けが行われる。 ・国の3つの主要民族集団の3種類の教育語のマレー語、中国語、およびタミール語を1つの学内に共存させる「構想初 	

		<p>等学校」があり、3 集団それぞれの運営者および教員によって管理されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マレー系以外の子どもがマレー語を1年間学習する制度である「移行学級制度」がある。 ・イスラム教徒が多いので、イスラム教徒の生徒を対象にイスラム研究という科目が取り入れられている。
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・中等学校後の2年課程のシックスフォーム、大学準備課程、カレッジ、さらにポリテクニク、大学、大学院に進学する。
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・4歳からのプレスクールがある。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・教育行政は、連邦政府→州教育庁→地方教育事務所→学校という強力な縦割り構造になっており、教育に関する組織、運営、開発等はすべて教育省の管理下にある。 ・教育に関する企画立案及び意思決定は、教育企画委員会により行われる。 ・全寮制中等学校が、全国に40校以上あり、小学校6年生時に学力到達度を測る全国統一試験の結果をもとに教育省によって選抜される。
学 校 生 活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・3月上旬に9日間、5月下旬／6月上旬に16日間、8月中旬に9日間、11月中旬から50日間の年4回ある。
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・落第は、基本的にはない。
	子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> ・公立中学校の中には、全寮制で、寮で寝食を共にしているので、放課後の大部分は補習授業や復習、宿題などの勉強に費やしている。
生 活 習 慣 等	言葉の指導面の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の学習では、「ツ」と「ス」と「チュ」の区別がつかない、「ウ」と「オ」を混同してしまう、「アイ」を「エー」と発音することがある。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャンケン「オソム」といい、日本と同じように石（パトゥ）、はさみ（グンティン）、紙（クルタス）で勝負する。石ははさみに勝ち、はさみは紙に勝って、紙は石に勝つ。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の教育情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・マレーシアの教育・・・・・・・・・・・・・・・・CLAIR
- ・教育事情・・・・・・・・・・・・・・・・海外職業訓練協会


- ・おもしろジャンケン・・・・・・・・・・・・・・・・・・日本アセアンセンター
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・井上恵子

南アフリカ共和国		首都	プレトリア
 <p>多種多様な人種・民族が一緒になって前進するというイメージを表している。</p> <p>1910「南アフリカ連邦」設立 1961 英連邦から脱退し、共和制へ移行 国連加盟：1945/11/7 政体：共和制</p>	国 の 概 要	国土	面積 122万1,000 km ² (日本の約3.2倍) アフリカ最南端に位置し、国土の大部分は標高1,200mの高原台地である。東部と南部の海岸は台地から急崖となって海へ落ち込んでいる。西部には小さな海岸平野がある。北西部にはカラハリ砂漠が広がり、南東部には標高3,000mを越えるドラゲンスバーグ山脈が走っている。主要河川はオレンジ川とリンボポ川である。
		人口	4,740万人
		言語	英語、アフリカーンス語、ズールー語、ソト語などの計11が公用語
		通貨	ランド
		気候	西部は温帯の乾燥気候、南部は地中海性気候東部は西岸海洋性気候、内陸部はサバナ気候である。寒流の影響で緯度の割に気温は低い。
		民族	バンツール系諸族（コーサ族・ズールー族・ソト族）68%、ヨーロッパ系（アフリカーナ、イギリス系）18%、カラード（混血）11%、インド系3%
		宗教	キリスト教 68%、原始宗教 28%、イスラム教 2%、ヒンズー教 2%
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・9つの州があり、その州ごとに教育を管轄している。 ・初等教育（プライマリースクール）7年（7~13歳）、中等教育（ハイスクール）5年（14~18歳）中等教育修了後は専門学校、短大、大学がある。 	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育の期間は初等教育の期間の7年および中等教育5年のうちの3年（グレード8~10）を加えた10年間である。 ・授業料は地域及び学校ごとに異なる。学校の運営委員会が入学金、授業料を決める。その他、特別な行事の費用や教材費がかかる。 	
	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・州によって、公立・私立によって異なる。 ・学校年度は1月から11月である。 ・3学期制と4学期制がある。 ・授業の言語は地方によって違うが、英語、アフリカーンス語を使っているところがほとんどである。 	

	義務教育後の教育	・中等教育の最終学年（グレード 12）の最後にはマトリックと呼ばれる年 1 回の国家試験が 1 ヶ月に渡り、教科ごとに実施されるが、この試験に合格すると大学入学の資格を得ることになる。
	就学前教育	・ナーサリースクールと呼ばれる幼稚園(4～6 歳)とプレイスクールと呼ばれる保育園(3～6 歳)があり、義務ではない。
学 校 生 活	保護者の授業参観、保護者会、PTA	・授業料は徴収されるが地域学校によって異なる。学校の運営委員会が入学金や授業料を決める。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス

メキシコ合衆国			首都	メキシコシティ
 <p>緑・白・赤は諸州の独立、宗教、統一の3つの保証を示し、中央の鷲は国章で、首都建設の伝説を表している。</p> <p>独立：1821/9/27 スペインより 国連加盟：1945/11/7 政体：連邦共和制</p>		国 の 概 要	国土	面積 195万8,000km ² (日本の52倍) 北米大陸南部に位置する高原の国で、全土の3分の1は東西のシエラマドレ山脈に挟まれた平均高度1,700mのメキシコ高原で、横断火山帯が走り、地震も多い。平野はアメリカ国境のリオグランデ川下流部とユカタン半島にみられる程度である。太平洋岸にはカリフォルニア湾をはさんで低平な高原状のカリフォルニア半島が本土に並行して伸びている。
			人口	1億700万人
			言語	スペイン語 (公用語)
			通貨	ペソ
			気候	北部は高温乾燥の砂漠気候、東西の海岸は熱帯サバナ気候、中央高原はステップ気候、ユカタン半島には熱帯雨林気候もみられる。5～11月が雨季で、メキシコ湾岸は特に高温多湿になる。
			民族	メスティーソ (白人とインディオの混血) 55%、インディオ 30%、ヨーロッパ系 (スペイン人) 15%
			宗教	カトリック 89%、プロテスタント 6%
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園 (3カ月半～)、幼稚園 (3歳～5歳)、小学校6年間 (6歳～12歳⇒ (最大は14歳)、中学校3年間 (13歳～15歳)、高等学校3年間、専門学校2～5年間、大学4～6年である。 		
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育は幼稚園最終学年 (5歳)、小学校1年生～中学校3年生 (15歳) までの10年間である。 ・その年の8月31日までに満6歳になる者はその年の9月1日に義務教育の第1学年に入学する。 ・義務教育は完全保障で、授業料・教科書代も家庭の負担はない。 		
	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・学校年度は年度によって多少違うが、8月18日～翌年の6月30日までとしている。 ・2学期制をとっており、1学期は8月中旬から1月下旬、2学期は1月下旬から6月下旬になっている。 		

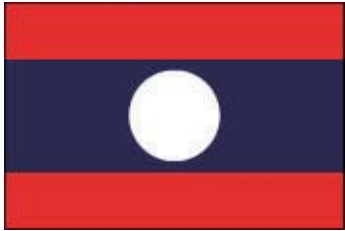
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校から1年ごとに、合格したら進級できる。 ・授業は午前と午後の2部制が一般的である。小学校では、午前の部（8：00～13：30）、午後の部（14：00～18：30）、中学校では、午前の部（7：00～14：45）、午後の部（14：00～19：30）である。 ・各学校は、学習指導要領にしたがって授業が進められ、進度・内容・時間配分は教科書に準じて担任教師に任かされている。 ・小学校ではスペイン語・算数・歴史・公民・自然科学・体育・芸術・技術科の8教科が履修される。 ・中学校ではさらに地理・生物・化学・物理・数学・教育概論・外国語が加わる。 ・一般に家庭学習の比重もかなり大きく、各家庭の教育への関心も強く求められている。 ・中学校で、3年間の選択の授業は現場での実習・体験活動である。
義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・普通高等学校、職業訓練校、専門学校（ただし、カレッジ的な性格の学校）などがある。普通高等学校は義務教育の延長線上に位置づけられるのではなく、大学進学のための準備的色彩が強い。よって、大学進学基準は大学の検定基準に準拠し、大学の提示した教育課程内容を高等学校3年間に履修することになる。職業訓練校は広く全国に分布し、多くの州政府が力を入れている学校である。専門学校の一種として、同様に週の主導で師範学校も数多く存在する。
就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育は文部省の認定では3年間(3、4、5歳児)であり、幼稚園最終学年は義務教育となっている。公立幼稚園もあるが私立幼稚園が中心となっている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・父母の経済的問題、設備や教員の補充などにかかわる経済的な問題から十分な教育を受けられずに中途退学する者も多く見られる。 ・公立と私立では教育体系が違う。
休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業は7月1日～8月17日、冬季休業は12月18日～1月2か3日頃の2週間、春季休業は3月に2週間ある。
学級担任制、教科担任制等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は学級担任制で、中学校は教科担任制で教師が教室に来て授業する。ホームルーム担任はいる。
飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・飛び級は小学校からあり、担任が保護者と相談して決める。

学 校 生 活		<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は厳しく、落第は小学校からある。2回だけ留年することができる。
	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体としてのクラブ活動はあり、バスケットボール、バレーボール、サッカー等のスポーツを行うことが増えている。水泳指導はない。 ・中学校教育の授業はテレビで放送して、講習を受けて合格する。
	学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週月曜日に愛国心を表すセレモニーを行う。
	給食	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育の学校では、給食はほとんどない。但し多くの公立小学校では午前・午後・夜間の3部制の授業を行っていることもあり、その子どもたちのために簡易食堂が設けられている。スナックやサンドイッチを休憩時間に食べる。 ・中学校でも簡易食堂や売店が設けられているところが多い。
	チャイムや号令	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての授業の切れ目にチャイムが鳴らされる。 ・号令はセレモニーのとき以外はない。
	教室における行動様式等の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは掃除をしない。掃除をする人を雇っている。
	校則	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校ともに制服があり、黒い靴をはく。かばんは指定がない。 ・学校の門は常に閉めてあり、生徒が出入りするときのみ開ける。
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観はあまりない。 ・保護者の集まりがあり、イベントの開催、フェスティバルの準備をする等が行われる。 ・学校・家庭間の連絡・情報交換も各担任に任せられることが多く、教育学習上の問題などが生じた場合、父母を学校に呼ぶことが一般的に行われている。
	子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> ・6時半か7時頃起床し、午前中は学校に行き、帰宅後昼食をとり、8時頃夕食、10時頃寝る。 ・放課後は宿題やクラブ活動に励む。家ではテレビをみたり、ゲームをしたりする。安全な地域では外で遊ぶこともある。週末の金曜日や土曜日は、夜9時ごろから明け方5時ごろまで友達とパーティーを楽しむこともある。 ・共働きの家庭が多く、祖父母が子どもの面倒をみたり、お手伝いさんを雇ったりしている。 ・一般的に生徒たちは両親に付き添われて通学する。

生活 習慣 等	言葉の指導面の留意事項	・日本語の学習では、「ツ」と「ス」と「チュ」の区別がつかない、「シ」と「チ」の区別がつかない、「ヤ行」と「ジャ行」が混同する、「ハ行」の子音が脱落してしまうことがある。
	宗教上の忌避事項	・月曜日はいつも集会で国旗に向かって敬意を表する習慣があるが、宗教上の理由でやらない子どももいる。
	食生活	・肉が中心で、ソーダをよく飲む。朝食は牛乳、パン、卵、2時～4時が昼休みで、ランチはしっかり食べ、夜はサンドイッチとコーヒーなどで軽く済ませる。
	衣服住居の違い	・一日の気温の変化が激しいため、長袖の人と半袖の人が同時にいることは珍しくない。
	交通規則の違い	・車は右側通行である。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・・・・・・・・・井上恵子
- ・日本語指導教員より
- ・メキシコ人より


ラオス人民民主共和国			首都	ビエンチャン
 <p>ラオス愛国戦線（パテトラオ）が使用していたもので、赤は革命に流した血を、青は国の繁栄を、白い円は未来への展望と約束を表している。</p> <p>独立：1949/7/19 国連加盟：1955/12/14 政体：人民共和制</p>	国 の 概 要	国土	面積 23万7,000 km ² （本州と同じ） インドシナ半島中央部に位置する内陸国で、西部のタイとの国境はメコン川、東部のベトナムとの国境はアンナン山脈である。国土の8割を山地と高原が占め、平地はメコン川流域に開ける程度である。メコン川の支流が多く、国土の3分の2は森林である。	
		人口	約600万人	
		言語	ラオ語（公用語）	
		通貨	キープ	
		気候	全般に高温多湿で南部は熱帯、北部は亜熱帯気候である。モンスーンの影響を受け、多量の雨をもたらす5～9月の雨季と10～4月の乾季にはっきり分れている。	
		民族	低地ラオ族68%、その他50近くの少数民族	
		宗教	仏教60%、部族宗教など40%	
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	・初等教育（小学校）5年（6～10歳）、中等教育前期（中学校）3年（11～13歳）、中等教育後期（高等学校）3年（14～16歳）及び職業学校3年（14～16歳）、教員養成学校（小学校教員養成）3年（14～16歳）、高等教育として国立大学5年（17～21歳）、教員養成学校（小学校教員養成）1年（17歳）、技術学校2年（17～18歳）、教員養成学校（中学校教員養成）3年（17～19歳）医学部は保健省の管轄化にあり3～7年の課程である。		
	義務教育	・義務教育は初等教育（小学校）の5年間である。 ・就学年齢に特段の定めがなく、概ね6歳で小学校の第1学年に入学しているが、6歳以前で入学する児童もいれば10歳で入学する児童もいる。 ・授業料は無料であるが、施設修繕費として負担を求められる場合がある。		
	日本と比較した教育課程上の特徴	・学校年度は9月1日から翌年の6月1日までで、2学期制を採っている。1学期は9月1日～1月20日、2学期は1月27日～6月1日である。 ・就学人口に対して学校の数・質ともに十分ではなく、午前と午後の2部制を実施している地域もある。		

		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書やノート類も十分ではなく、教科書は教師だけが持ち、児童生徒は教師の話聞き取るか、黒板に書かれたことを持参したノートに書き取っている。 ・教授言語はラオス語で、教科はラオス語、算数、私たちの身の回り、芸術、体育、音楽、工芸などである。 ・ビエンチャン特別区にある中・高一貫校では、月曜～金曜日までの5日間行われ、授業は午前8時～午後4時半までで、昼休みは1時間半ある。クラスは1年生から英語コースとフランス語コースに分かれており、選択が可能である。授業は7時間目まであり、そのうち、6時間が授業、1時間が部活動にあてられる。
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・中等教育以上は試験があり合格しないと進級できない。 ・中・高等学校は単位制のため、単位の取得状況によって早く進級したり、卒業したりする。 ・中学校は県単位、高校は全国単位でそれぞれ卒業認定試験がある。大学への進学率は全国平均で2%程度である。
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・義務ではないが、小学校入学に先立ち、子どもたちを身体的、情緒的、社会的および精神的に備えさせる目的から、3歳から5歳児を対象に幼稚園、保育園において有料で行っている。 ・保護者が勤務する官庁などの機関が設置し、運営している例が多い。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・政府の教育予算が極めて少ないので、適切な校舎がなく、教科書もなく、適切な訓練・研修を受けていない教師が全体の19%もいる。教師への給与支払いも遅延している。 ・初等教育においては、貧困、通学困難等の理由により、入学後に退学する児童が多い。
学 校 生 活	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・進級のために必要な出席日数が定められている。 ・小テストが実施され、成績評価の基となる。
	給食	<ul style="list-style-type: none"> ・給食はない。家に帰って昼食をとる生徒が多い。
	校則	<ul style="list-style-type: none"> ・首都ビエンチャン市の学校では小学校から大学まで制服が普及しているが、地方の学校では制服は一般的ではない。
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> ・授業料は無料であるが、施設修繕費として負担を求められる場合がある。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の中にお菓子屋さんがある。休み時間になると、子どもたちは集まってきて、小さなお菓子を食べたり、ジュー

		スを飲んだりする。先生たちもひまわりの種を食べたりしている。
生活習慣等	食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・もち米を主食にし、手で小さく丸めながらカレーなどのおかずにつけながら食べる。 ・メコン川で鯉によく似た魚がとれ、刺し身で食べる。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャンケン「ティー ソム」といい、日本と同じようにハンマー（カン ムー）とはさみ（ミー タッ）と紙（チア）で勝負する。ハンマーははさみに勝って、はさみは紙に勝って、紙はハンマーに勝つ。 ・日本のテレビドラマやアニメ、音楽についての関心が高く、「日本の技術力はすごい」と思っている生徒が多い。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校をしてみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・世界の郷土料理・・・・・・・・・・・・・・・・KDDI
- ・おもしろジャンケン・・・・・・・・・・・・・・・・日本アセアンセンター

ルーマニア			首都	ブカレスト
 <p>青、黄、赤の縦三色旗で、青は空、黄は鉱物・穀物、赤は祖先の血、独立闘争を表している。</p> <p>独立：1978 オスマントルコより 国連加盟：1955/12/14 政体：共和制</p>	<p>国の概要</p>	国土	面積 23万8,000 km ² (本州とほぼ同じ) 北西部のトランシルバニア台地、中央部のカルパチア山脈、南東部ドナウ川流域のポレーキア盆地に分けられる。東部は黒海に面している。	
		人口	2,170万人	
		言語	ルーマニア語(公用語)、ハンガリー語、ドイツ語	
		通貨	レイ	
		気候	温帯に属し、年較差の大きい大陸性であるが比較的温和である。降水量は年間を通してほぼ一定で、山地に多く平野部では少ない。南部の平野では地中海性気候の特徴もみられ、夏季に乾燥する。	
		民族	ルーマニア人 88%、ハンガリー人 8%、ドイツ人 2%	
		宗教	ルーマニア正教 87%、ローマカトリック 5%	
<p>教育制度の概要</p>	学校体系	・ ジェネラル・エデュケーションと呼ばれる小学校4年間、中学校4年間、高校4年、大学3年(医学部を除く)となっている。		
	義務教育	・ 義務教育はジェネラル・エデュケーションと呼ばれる8年間(7歳~16歳)であるが8年生を修了した時点で試験があり、進学できない場合は7~14歳でも可とする。 ・ 法的には2003年以降は義務教育期間を10年としている。 ・ 授業料は無料である。 ・ その年の学年が始まるまでに、満6歳になる者は、その年の9月15日に義務教育の第1学年に入学する。		
	日本と比較した教育課程上の特徴	・ 学校年度は9月15日~6月半ばごろである。(実際上は、何曜日に当たるかのよって若干の異動がある。) ・ 2学期制をとっており1学期は9月15日~12月20日、2学期は1月6日~6月半ばごろである。 ・ 小・中学校は校舎や教員の不足などから併設、2部制になっているところが多く、午前は小学校、午後は中学校が授業をする。小学校は8:00~13:00、中学校は13:10~19:00である。(一例) ・ 外国語の教育に重点が置かれ1年生から第1外国語(週2		

		<p>時間)、2年生からは第2外国語(週2時間)の学習が始まる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択される外国語では英語の人気は高く、次いでフランス語、ドイツ語という順になっている。 ・授業時間は週22～29時間で、語学以外の教科は、日本より時間数が少ない。学年の終わりには、盛大に表彰式が行われ、成績優秀者をはじめ、音楽や体育などで活躍した者も表彰される。 ・教授言語はルーマニア語で、1年生から選択教科があり、週1時間が割り当てられている。選択教科とは1年生では「英語の歌」などで、その後は各国の文化などについて学ぶことが多く、日本の「総合的な学習の時間」のような位置づけに近いと考えられる。 ・1年生から外国語が週2時間入り、2年生からは第2外国語が加わって、週4時間になる。社会科や理科の科目時間数は日本よりは少ない。8年生には6月に卒業試験がある。
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・中学卒業後の進路では高等学校への進学率が高い。そのほかに職業訓練校、実業校などがある。また、音楽や体育を専門にする高等学校もあり、学校の種類が多い。 ・大学進学を希望する生徒は、高校卒業の際にバカロレア試験(大学入学資格試験)に合格した上でさらに希望する大学の入学試験がある。 ・学校のほとんどは国立学校で、国の予算で運営されているため、授業料は無料である。近年、私立大学も増えてきている。
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前教育は義務ではない。3歳～6歳児が保育園や幼稚園に通う。費用やカリキュラムも多種多様で、英語や算数などを教えるところもある。最近では外国語の幼稚園もあり、人気が高いようである。
学 校 生 活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みは6月15日～9月15日までの3ヵ月である。
	学級担任制、教科担任制等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は学級担任制、中学校から教科担任制となる。
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・ある。
	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・1教科に何冊もの教科書がある。

	給食	・給食はない。学校には簡単な購買所があるが、校内で食事をとることはない。
	チャイムや号令	・ある。
	校則	・特に厳しい校則はなく、学校の名に恥じない行動をとることとし、制服はある学校とない学校がある。
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	・ある。
	子どもの一日	・午前中は学校で授業、午後は家で宿題をしたり、家庭教師について勉強をしたり、塾に行ったりする。
生活習慣等	宗教上の忌避事項	・特にない。
	食生活	・代表的な伝統料理は酸味の利いた野菜や肉のスープ「チョルバ」、キャベツを使ったロールキャベツ「サンマーレ」がある。主食はパンである。 ・地方では、自給自足を基本としており、生活ぶりは質素でほのぼのとしている。
	衣服住居の違い	・ブカレスト中心部は、古い8～10階建てのアパートがある。最近では前面ガラス張りなどの現代風のアパートやビルが建つようになった。
	交通規則の違い	・ブカレスト市内は「トランバイ」と呼ばれる路面電車と地下鉄、バスが走っている。
	その他	・日本については、経済大国、自然が美しい、伝統文化があるなどの印象をもち、日本人は、勤勉で誇り高く、感受性が強いというイメージをもっている。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の教育情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ブカレスト日本人学校（月刊誌「海外子女教育」）・・・・・・・・海外子女教育財団
- ・ブカレスト日本人学校での三年間を振り返って・・・ブカレスト日本人学校 樋口 猛
- ・世界の郷土料理・・・・・・・・・・・・・・・・KDDI

平成18・19年度 文部科学省「新教育システム開発プログラム」委託事業

外国からの子どもたちと共に

〈母国の教育事情〉

平成20年3月31日発行

編集者 外国人児童生徒受入体制整備研究会

(事務局) 千葉県教育庁企画管理部教育政策課

〒260-8662 千葉市中央区市場町1-1

TEL 043(223)4177
